

青木大介

青大将の右腕を司るハイエンド「ディバイロ」。
そして戦術ごとに選抜されたDAIWAリール

「ほんの微かな差」が
釣果に大きな差を生む

ロッドはディスタイルのハイエンドに君臨するディバイロ、リールはDAIWA、そしてラインはラインシステムのザルツシリーズが青木大介さんのスタメン軍。「オカッパリ」となると、この2本が主軸になることが多く、中でも絶対的な1本は「Dジグカバー専用」タックルとも言える「ディバイロ・カバードリフト」。昨年決勝を制した際にもウイニングに輝いた1本で「不動のタックル」だという。

数でなるべく数多くの釣りをこなせるようにバースタイルを選ぶことが多い。でも、この1本は5本限定という陸王リールという制限の中で欠かすことのできない「ディバイロ」のキャパシタリィ。ラインはPE1.5号を組み、リールはスプール径32ミリのアルファSV TW 800SのXHLを選択。昨年決勝では同じくアルファSVの30ミリ径・BFTW 8・5Lを使用していたが、ゼコンバートしたの。

「前回はDジグカバーの3・3グラムが主軸で、今回は3・8グラム。いずれのリールでも十分に投げられるけど、より手返しの良いスジグ自重の差と回収スピードの差。「ほんの微かな差」だが、それが釣果の差へと繋がるのだ。



BFカバードリフト
4.5グラム(ジャクソン)+
アオキザリ(ディスタイル)

メインタックル①

ROD
ディバイロDHRC-69L+
カバーフィネス
(ディスタイル)

昨年決勝で全ての魚を仕留めたのがこの1本。69センチはカバーへのより正確なアプローチを可能にすると共に、掛けたあとは相手に主導権を与えない優位性。陸王では最も使用頻度が高い「オカッパリ」Dジグカバードリフトだ。

REEL
アルファSV TW
800S-XHL (DAIWA)

φ32ミリ超々ジュラルミン製SVフリースプールの搭載。優れたレスポンスはキャスト精度を高めピンポイントを撃ち抜く。またギア比8.5、1回転85センチの回収スピードは掛けた獲物を瞬時にカバーから引き剥がす。ノンコートコルクノブ(SLP WORKS)に換装済み。

LINE
ザルツ ゼノス
X8バス1.5号
+ルアーショッキング
リーダー6ボンド
*プロト(共にラインシステム)

「PEはほかのラインより細径だから飛ぶのが基本。このPEはすく滑らかな表面なので、通常より1ランクくらいは投げがいがいいし何より強い」。ペイト、スピニング共に同鋭柄を選択。

メインタックル②

ROD
ディバイロDHRC-63L
フィネスバースタイル
(ディスタイル)

「オカッパリ」だとフィネスでどんなリグを使うかは、試合が始まってみなければわからない。どんなリグにも万全の体制で備えるのがこのフィネスバースタイル。今回はエビソンプーイ、ジグヘッドワッキーなどで活用。

REEL
イグジスト
LT2500S-XH
(DAIWA)

超フィネス展開では、超軽快な操作性を求めたイグジストSの出番だが、今回は過酷なオカッパリかつ高強度PEに対応すべく高強度なLモデルを選択。巻き展開以外は、エグストラハイギアの回収スピードが主軸となる。

LINE
ザルツ ゼノス
X8バス0.6号
+ルアーショッキング
リーダー6ボンド
*プロト(共にラインシステム)

「最近PEを使う頻度が非常に高いので、どんなバスフィッシングでも使いやすいリーダーを開発中です。強さやしなやかさはもちろん、一番は感度重視ですね」。鋭意開発中。

梶原智寛

全てに意図がある細部まで
こだわり抜いた道具選び

野良ネズミはタックルが
動きに大きく影響する

今回、梶原さんがメインにした野良ネズミの釣りはかなりやりこんでおり、タックルセッティングも最適解を目指している。ロッドもラインの太さも、ルアーカラーも明確な意図がある。「野良ネズミをうまく動かさない人は、ぜひ僕と同じタックルで試してみてください。腕も疲れず綺麗に釣ってください。カラーはすべて買ってしまった。一番釣れるか検証したんですが、クリアウォータードでもマッドでもオレンジのカラーネズミがダントツでした。水馴染みが良く、視認性もいい

ので好きで使っています。濁った中ではしっかり目立ちつつ、意外とナチュラルに見えていると思っています」。一方、エビソンの場合リーダーの長さがかなり重要とのこと。「リーダーは1メートル以上取ること、リーダーが長いと、奥行き1メートルのカバーでもPEが草などに引っかからないで攻めることができます。さらに、フロロリーダー自体の重さでリグを沈めることも可能です。リーダーをオモリ代わりにして、微妙なレンジコントロールが可能なんです。0・1・0・2グラムのネーリングカーでも自然にフォールさせて誘うことができますよ」。



使用タックル

① [ドライブスティック4.5インチ用] ●ロッド: グラディエーターマキシマム GX-72MH+C パールロート2 ●リール: メタニウムシャローエディションXG L ●ライン: アブソルートAAA 14ポンド
② [スモラバ用] ●ロッド: グラディエーター 69L+プロト ●リール: アルティマBFS XG L ●ライン: アブソルートAAA 10ポンド
③ [野良ネズミ用] ●ロッド: グラディエーターアンチGA-63LS ディフェンダー ●リール: ヴァンキッシュ 2500SHG ●ライン: アブソルートPE X8 1号
④ [エビソンプーイ用] ●ロッド: グラディエーターマキシマムGX-59XLS-AS ソリッドマックスXL ●リール: ヴァンキッシュ C2500S XG ●ライン: アニ ソルトウォーターフィネスPE X8 0.3号 ●リーダー: アブソルート ショッキングリーダー VSPフロロカーボン 5ポンド
*ロッドはレイドジャパン、リールはシマノ、ラインはパナソニック

メインタックル①

ROD
グラディエーター
アンチGA-63LS
ディフェンダー
(レイドジャパン)

「野良ネズミをやるならロッドはファステーターバーよりはやレギュレーターバー寄りがいい。スピードで食わせるミスバイトが多い釣りのため。そこでロッドの曲がり度でタイムラグを作って、バイトを深くすることができる。この竿なら勝手に掛かってくれるし、手首も疲れません」。

REEL
ヴァンキッシュ
2500SHG (シマノ)

太めのPE1号ラインを巻いて、カバーでの回収率を上げるために2500番をセット。スピーディーな操作が必要なたまハイギアが適している。「野良ネズミにはこのリールがベストマッチで、軽いのでアクションがつけやすく、操作もしやすいです」。

LINE
アブソルートPE X8
1号 (パナソニック)

「野良ネズミはPEラインの1号が一番よく動きます。0.8号だと強度的に不安、1.2号だとゴツつきが気になる。太すぎるとネズミのアクションがラインに動かされてる感じがしてしまうんですね。フロロの場合はいつもハンガマンズノットで結ぶのですが、PEはパロマノット。この結び方なら抜けません」。

メインタックル②

ROD
グラディエーター-63L
プロト(レイドジャパン)

「ロッドはプロトで、かなりファステーターバーのサイト専用モデル。ルアーをバックスと動かしてバックスとアワモれる。自由自在にルアーを動かせる軽さも重視しています。エビソンはツイッチの強弱がとても重要なので、アクションレスポンスのいいロッドをチョイスしています」。

REEL
ヴァンキッシュ
C2000SHG (シマノ)

「PE0.4号以下を使うには2000番を使っています。マイクローームなどを投げていくにはこのリールがぴったり。タックル全体の重量も軽くしていきたいので、ヴァンキッシュのC2000を使っています」。

LINE
アパニ ソルトウォーター
フィネスPE 0.4号
+アブソルートショッキングリーダー
VSP フロロカーボン 5ポンド
(共にパナソニック)

「0.6号だとゴツつきが出るので、ベストは0.4号。リーダーの長さが大事で、やや長めに1メートルほどとします。カバーの最奥まで入れたときに、カバーにPEが引っかかりにくい長さにしておくことが大事です」。



ヒットルアー

梶原智寛
野良ネズミ
(ティムコ)

陸王
2025
©ルアーマガジン

エビにも魚にもなる
カスミ必須の水面エラストマー

今回梶原さんはすべての魚を野良ネズミでキャッチ。「カスミ水系は野良ネズミをベースに釣りを組み立てていると言っても過言ではありません。エビにもなるし魚にもなるし、いろいろな場所で使えます。フックポイントは埋めません。フッキング性能重視ですね。カラーはこのカヤネズミしか使いません」。フックはインフィニ1/0(リュウギ)。

使用ルアー

梶原智寛
エビソンプーイ
(ディスタイル)

陸王
2025
©ルアーマガジン

逃して使う
エビボイルの必殺ルアー

野良ネズミの次に使用頻度の高かったルアー。スイベルがあったほうがルアーが回転しないので釣りのテンポが上がる。「今回は食いも悪いし、食っているエビが小さかったのでエビソンプーイにしました。カラーは野良ネズミと同様のオレンジ系。視認性が高いのと、どんな色にも不思議と馴染んでくれます。スーベリオC0フック#4(エンジン)、TGネイルシンカー 0.3グラム(レイン)、カシメスイベル #10(デコイ)。

使用ルアー

梶原智寛
アビ35改
(レイドジャパン)

陸王
2025
©ルアーマガジン

ひと口で食わせるサイトの切り札

アビ35の5節目をカットしたもの。これをノーシンカーでチョンがけするだけ。小さいエビにボイルしている場合や、サイトの場合に用意。「自分のサイトの釣りの最終兵器的なルアー。残りの部分も捨てないで持っていて、そこだけで使ったりもします。カラーはゴーストジュリンがイチ押しです」。フックはスーベリオMフック#10(エンジン)。

使用ルアー

梶原智寛
エグダマタイプレベル
3.5グラム
(レイドジャパン)

ディトレーター
(ゲーリーインターナショナル)

陸王
2025
©ルアーマガジン

フリーフォールでの
食わせ性能抜群のスモラバコンビ

「過去のカスミの大会ですと良い思いをしている。自分の中では欠かせないスモラバの組み合わせです。カバーに引っ掛けてシェイクするというよりは、アシなどに入れてフリーフォールさせるのが、個人的には一番気に入っている使い方。カスミだけでなく、全国のフィールドで使ってますね」。

ヒットルアー

青木大介
エビソンプーイ
(ディスタイル)

陸王
2025
©ルアーマガジン

水面直下でのミドスト的展開
「シェイク・エビソンプーイ」が奏功

テールのホールにネイルシンカーを仕込んで沈めての表～中層攻略。ミドストの如く細かなシェイクによる横の動きで誘い、ときにノーシンカーによるトップウォーターでも攻略。バスの眼がセレクトティブになる真夏はこのシリーズ最小モデルを選択。●TNSオフセット#4(ハヤブサ) ●ルアーシンカー TGネイル0.6グラム(DAIWA)

ヒットルアー

青木大介
コイケ
17ミリ
13ミリ
(ハイドアップ)

陸王
2025
©ルアーマガジン

DAY1使用ルアー
17ミリ
●フィネスワッキー #1*オ
リジナルガード改(ハヤブサ)
●バザースワームシン
カー TGベアハリス止
め3.5グラム(DAIWA)

DAY2ヒットルアー 13ミリ
●フィネスワッキー #2*オリジナルガード改(ハヤブサ)
●TGグリーナーシンカー クイックチェンジャー 2.8グラム(パナソニック)

奇しくも今戦で自身初釣果
2日目のサイズダウンで一閃

初日に1バイトを得た17ミリから、2日目はサイズダウンした13ミリで一閃。いずれもモリケンリグ。産卵から回復してジャックが厳しくなった北浦バスの本能を直撃した形だ。「いろんな試合の練習では釣れるけど、本番では裏切られ続けてきた(笑)。実は試合で釣るのは今回が初めて」。強力なルアーパワーは選り抜いた絶好のタイミングでこそ活きる。

ヒットルアー

青木大介
Dジグカバー-3.8グラム
(ディスタイル)

+ディトレーター
(ゲーリーインターナショナル)

陸王
2025
©ルアーマガジン



岸釣りカバーゲームを無双する
スモラバ“神”セッティング

ヘッド素材に純度の高いタングステン素材を採用して、極限までミニマム化。同目重ならほかより圧倒的にコンパクトで、なおかつカバーに滑り込みやすくてスタックを察しやすいう秀逸なフォルムに注目。ラバーのセッティングにも青木さんのこだわりが凝縮。トレーラーには繊細なシェイクで微振動を伝達し、使いやすいディトレーターが青木さんの定番だ。

ヒットルアー

青木大介
4インチ
カットテールワーム
(ゲーリーインターナショナル)

陸王
2025
©ルアーマガジン



不動のライトリグ万能ワーム
今戦はジグヘッドワッキー主軸

ジグヘッドワッキーにセッティングして、シェイクでトリッキーな動きを演出。今戦ではアシンを始めとする濃いめのカバーではオープンフックのこのリグでフッキング性能を重視。●D-ストライカー ヘッドタイプJHW 0.9グラム(ハヤブサ)

※切り取ってご使用いただけます。

※切り取ってご使用いただけます。